Prism
No. 108
Practical Information for your Serendipity and Mind

学びを止めるな！
LA 発★学習・研究のヒント

レポート・論文の書き方 ～引用・註の書き方編　その壱～

レポートや論文に必要な引用・註の書き方について、３回にわたってご紹介します。

【はじめに】

皆さんはレポート・論文を書く際、一定の手順に沿って、項目を分けながら書き進むことが多いでしょうか。特に問題意識や研究背景を述べる部分では、書籍文献、先行研究、雑誌・新聞記事などを引用する必要があります。

学術論文の場合、引用の仕方や註の書き方が重要となっています。レポートにとって適切な引用や註は大きなアドバンテージになるでしょう。経験豊富な読み手は引用リストを見るだけで、執筆者の学問に対する態度、情報に対する判断力を推測できます。

したがって、どの文献から何をどのように引用するのか、引用や註（引用元）の書き方が大切となります。ネット記事やウィキペディアからの引用は大丈夫だろうか。引用や註の書式は何が正しいのか。これらのことについて悩んだことはないでしょうか。

今回は、筆者の美術科教育の研究分野における論文執筆の経験を踏まえて、「どこから引用したら信憑性が高まるか」について話したいと思います。

もちろん引用内容には、事例紹介の際のホームページの引用、政府が制定した法律・政策、学習指導要領の引用などもあります。今回の場合、概念、定義、言説等、論点の裏付けとなる引用内容を対象とします。

【情報源の信頼性を判断する】

信憑性、信頼性の高い順から、

学会誌論文・書籍＞査読不要の紀要・雑誌記事＞ウィキペディア・ネット記事・新聞記事

と大まかに考えることができます。

〇学会誌で掲載された学術論文は、同分野の十分な研究経験を有する研究者によって査読され、審査を通過したものが掲載されるため、信憑性が最も高いと思われます。引用する際に、学会の現状や歴史、学会誌に ISSN(国際標準逐次刊行物番号)があるかどうかの確認を行いましょう。書籍も同様で、ISBN（国際標準図書番号）を確認しましょう。

〇ISSN を有しない、もしくは査読不要の紀要等で掲載されている文章（ISBN を有しない書籍・刊行物も同様）は、その論説が主観的・恣意的に陥る可能性が避けられず、論点を裏付ける根拠として引用する際に熟慮が必要でしょう。卒業論文・修士論文については、学外からアクセス困難な場合が多く、やむを得ない場合を除いて引用を避けるべきと思います。

〇ウィキペディアは誰でも編集できるため、普段の調べものでは十分ですが、レポートや論文を書く時は避けるべきでしょう。ネット記事は情報源の正しさや作成者の来歴について曖昧な場合が多く、論点を裏付ける根拠としては引用しないことをおすすめします。

新聞記事は新聞社の性質上、政治的な影響を受けたり、意図的に作成されたり、事象に関する記述の信頼性が判断しにくい場合が多く、引用する際、十分に注意する必要があります。

〇ほかに注意すべきことは、引用内容に「二次引用」がないか、著作権に対する配慮があるかどうか、などが挙げられます。

【まとめ】

引用に大事なのは、信頼できる文献・情報を見極めることです。

（その弐へ続く。）

文責：LIAO（芸術）

新聞は、上手に使うと事実を確認する良い情報源になります。各紙それぞれに特徴があるので、比較して信頼性を判断しましょう。

2020/07/27　発行